



インフルエンザの流行に備えて～みんなで広げよう、予防の輪～



立春を過ぎ、暦の上では春を迎えましたが、まだまだ寒い日が続いています。現在、校内ではインフルエンザが流行しています。先週は6年生に多くの欠席者が出てしまい、急遽「学年閉鎖」の措置をとることとなりました。

現在は他の学年でもインフルエンザと診断されるお子さんが増えており、今後さらに流行が拡大する心配があります。学校では換気や加湿器の使用を徹底していますが、ご家庭でも引き続きお子さんの健康観察をお願いいたします。

感染予防対策については、保健だよりをご覧ください。（学校ホームページにも掲載しております）

ポケットから手を出して歩こう～「手袋」で防ぐ、登校中の大きなケガ～

登校指導をしながら、子どもたちの姿を見ていると、肩をすぼめて両手をズボンのポケットに深くつまこんだまま歩いている子を多く見かけます。確かに、冷たい風が吹く中で手を出すのは辛いものですが、これは安全面で非常に大きなリスクがあります。歩道が凍っていたり、何かに足を引っ掛けたりして転倒した際、手がおさまっていると瞬時に出すことができません。



・顔面を地面に強打する（前歯の折損や顔のケガ）

・受け身が取れず、大きな骨折につながる

こうした大きなケガを防ぐためにも、登校時は「両手が自由に使える状態」であることがとても大切です。寒さ対策には、ぜひ手袋を活用させてあげてください。手袋をしていれば、ポケットに手を入れてなくても指先の冷たさを防ぐことができ、いざという時もすぐに地面に手をつくことができます。

「自分の身を守る歩き方」について、ぜひご家庭でも話題にしてみてください。学校でも引き続き、安全指導を行ってまいります。